

害虫駆除・シロアリ防除・燻蒸サービス市場 に関する調査を実施（2016年）

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて国内の害虫駆除・シロアリ防除・燻蒸サービス市場の調査を実施した。

1. 調査期間:2016年8月～11月
2. 調査対象:PCO(Pest Control Operator)サービス企業、TCO(Termite Control Operator)サービス企業、燻蒸(くんじょう)サービス企業等
3. 調査方法:当社専門研究員による直接取材、及び電話アンケート調査、文献調査併用

＜本調査における害虫駆除・シロアリ防除・燻蒸サービス市場とは＞

PCO(Pest Control Operator)サービスとはゴキブリ、ネズミ、ハエ、カ、ダニなどの公衆衛生害虫予防・防除・駆除をさし、TCO(Termite Control Operator)サービスとはシロアリ予防・防除・駆除をさす。また、燻蒸サービスとは植物防疫法に基づく輸出入農産物燻蒸、文化財燻蒸、穀物倉庫燻蒸を対象とする。なお、いずれの市場にも駆除剤等の薬剤を含まず、且つ薬剤散布用機材や防護服等の関連資機材を除外している。

【調査結果サマリー】

◆ 2015年度の害虫駆除・シロアリ防除・燻蒸サービス市場規模は

1,258億6,000万円、前年度比103.4%

2015年度の害虫駆除(PCO)・シロアリ防除(TCO)・燻蒸サービス市場規模(事業者売上高ベース)は前年度比103.4%の1,258億6,000万円であった。長らく低迷していた害虫駆除(PCO)・シロアリ防除(TCO)・燻蒸サービス市場は底打ち感をみせている。

◆ PCOサービスの大手事業者は、総合衛生管理のコンサルティング事業を拡大へ

PCOサービスの大手事業者は、食品会社や製薬会社の工場における異物混入などを防ぐためにコンサルティングから予防・衛生管理に関する定期的な作業にいたるまでのサービスを提供することで、売上高を伸ばしており、中堅事業者との格差が広がりつつある。

◆ 2016年度の害虫駆除・シロアリ防除・燻蒸サービス市場規模は

1,278億円、前年度比101.5%と微増を予測

2016年度の害虫駆除(PCO)・シロアリ防除(TCO)・燻蒸サービス市場規模(事業者売上高ベース)は前年度比101.5%の1,278億円で予測する。

害虫駆除(PCO)サービス分野では、食品への虫などの異物混入事件が多発した影響で、食品メーカー等は異物混入防止の改善諸施策の推進と害虫駆除施工の徹底が進み、シロアリ防除(TCO)サービス分野では住宅等の長寿命化と防災面も含めた保全意識が高まり、またシロアリを含めた床下工事需要が下支えし、燻蒸サービス分野では輸出木材関連の燻蒸サービス需要が増加しており、2016年度の同市場は微増を予測する。

◆ 資料体裁

資料名:「2016年版PCO・TCO・燻蒸サービスの市場実態と中期展望」
 発刊日:2016年11月29日
 体裁:A4判 336頁
 定価:129,600円(本体価格120,000円 消費税等9,600円)

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝

設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL:<http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL:03-5371-6912 E-mail:press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

1. 害虫駆除(PCO)・シロアリ防除(TCO)・燻蒸サービス市場全体の現況と予測

2015年度の害虫駆除(PCO)・シロアリ防除(TCO)・燻蒸サービス市場規模(事業者売上高ベース)は、前年度比103.4%の1,258億6,000万円であった。

近年、食品への虫などの異物混入事件が多発した影響で、食品メーカーは異物混入防止のためのハード・ソフト両面での改善諸施策が進められており、PCO業者にとっての追い風となっている。また、TCO業者も住宅等の長寿命化と防災面も含めた保全意識の高まりなどにより、シロアリを含めた床下工事需要の下支えもあり、長らく低迷していた害虫駆除(PCO)・シロアリ防除(TCO)・燻蒸サービス市場は底打ち感をみせている。2016年度の同市場規模は、前年度比101.5%の1,278億円と予測する。

2. 分野別市場の現況と将来展望

2-1. 害虫駆除(PCO)サービス市場

2015年度の害虫駆除(PCO)サービス市場規模(事業者売上高ベース)は、前年度比104.9%の731億円となった。同市場は、薬剤だけでなく環境整備も含めた様々な防除対策を組合せて害虫管理を行うIPM(Integrated Pest Management:総合防虫管理)の考え方が浸透したことで需要が落ち込み、年々縮小傾向にあったものの、異物混入事件から害虫駆除施工が徹底され、需要は拡大基調に変わってきており、市場は2013年度から増加に転じている。

また、PCOサービスの大手事業者は、総合衛生管理のプロフェッショナル集団として、食品会社や製薬会社の工場における異物混入などを防ぐためにコンサルティングから予防・衛生管理に関する定期的な作業にいたるまでのサービスを提供することで、売上高を伸ばしており、中堅事業者との格差が広がりつつある。また、強い薬剤を使用することが許されないことから、大都会などではネズミ、ゴキブリなどの個体数は減少しておらず、増加傾向にあるといわれ、このため同市場の潜在需要自体はまだまだ見込まれる。

他にも、害虫の所在検査のため、赤外線センサーや超音波器、衝撃波器等のハイテク機器の導入も盛んとなっており、害虫の発見・駆除までの作業自動化、効率化が重要と考えられ、スマート化、IT化が進んでいくと考える。

2-2. シロアリ防除(TCO)サービス市場

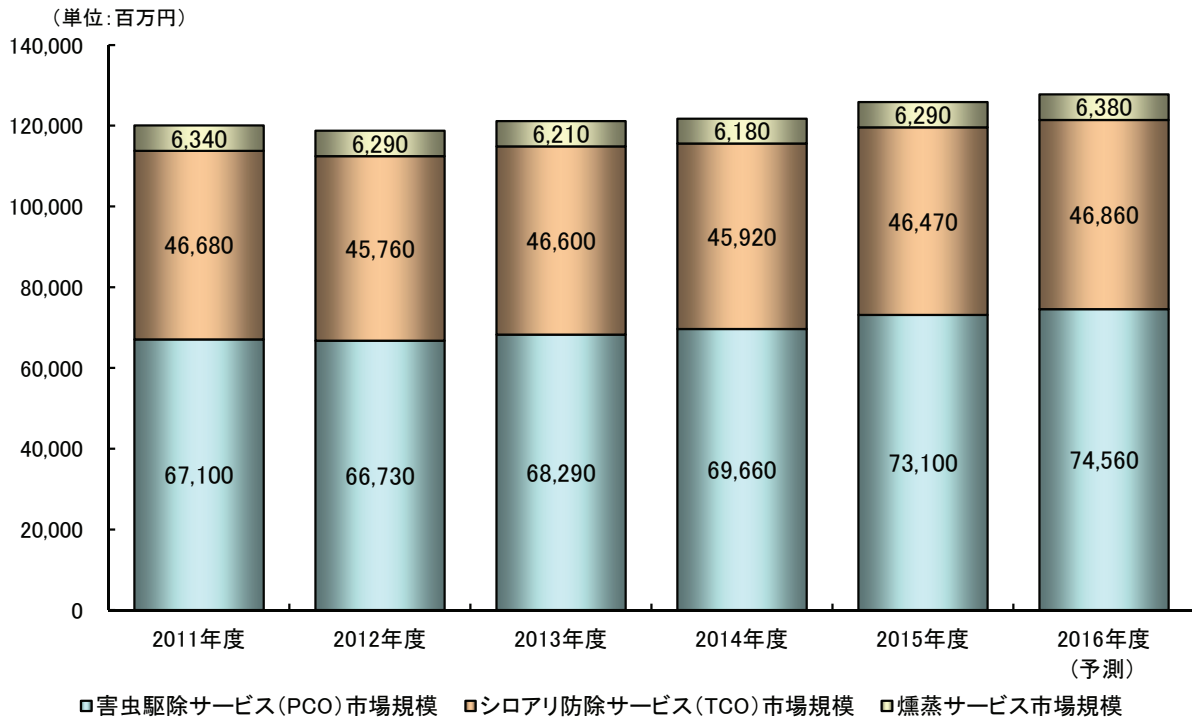
2015年度のシロアリ防除(TCO)サービス市場規模(事業者売上高ベース)は、前年度比101.2%の464億7,000万円となった。同市場は、新築住宅建築におけるシロアリ防除工事の必要のないベタ基礎やシート工法の増加、及びシロアリ被害自体の減少などから、縮小傾向で推移していたものの、住宅等の長寿命化と防災面も含めた保全意識の高まりなどにより、シロアリを含めた床下工事需要が下支えとなり、市場は底打ち感をみせている。

また、近年の国の「家屋を長寿命化させる」政策を背景に、既存家屋の保全への関心度が上昇してきており、新築住宅における施工工事に大きな需要拡大が期待できない中で、各事業者とも地域に密着した営業エリア内の既設住宅市場の深堀に力を注いでいる。

2-3. 燻蒸(くんじょう)サービス市場

2015年度の燻蒸サービス市場規模(事業者売上高ベース)は、前年度比101.8%の62億9,000万円となった。燻蒸は一般的に植物防疫法に基づき、防疫検査不合格とされた一部の植物に行なわれるもので、倉庫やコンテナ等で完全に密閉した状態で行う消毒作業であり、水際で病害虫、カビ、ウィルス等の侵入を防止することを目的としている。燻蒸サービスについては港湾付近施設で行われる輸出入農産物が主体であるが、これ以外に文化財や穀物倉庫の燻蒸サービスがある。

同市場でも規制緩和が進み、燻蒸の必要のない害虫の範囲が年次拡大されてきており、これにより燻蒸サービスの市場はダウントレンドをたどってきたが、2015年度からは輸出木材関連の燻蒸サービス需要が増加しており、小幅ながらも増加基調となっている。

図表 1. 害虫駆除(PCO)・シロアリ防除(TCO)・燻蒸サービス市場規模推移


(単位:百万円)

市場種別	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度(予測)
害虫駆除サービス(PCO)市場規模	67,100	66,730	68,290	69,660	73,100	74,560
シロアリ防除サービス(TCO)市場規模	46,680	45,760	46,600	45,920	46,470	46,860
燻蒸サービス市場規模	6,340	6,290	6,210	6,180	6,290	6,380
総市場規模(合計)	120,120	118,780	121,100	121,760	125,860	127,800

矢野経済研究所推計

注1. 事業者売上高ベース

注2. いずれの市場にも駆除剤等の薬剤を含まず、且つ薬剤散布用機材や防護服等の関連資機材を除外している

注3. 2016年度は予測値